

ヘビ

Habu viper / *Protobothrops flavoviridis* / Habu / ハブ

猛毒マムシであるハブは、奄美大島の食物連鎖の頂点にいて、獲物を探すため民家から山、地上から木の上まで至るところに生息している。大型のヘビは体長 2m にもなり、これまでの最高記録は 2.43m である。ハブはオリーブ、茶色、黄色などの縞模様があり、保護色によって見えなくしている。体を S 字に折り曲げ、体長の 2/3 の距離まで跳ね、獲物を攻撃し、たんぱく質を溶かす強力な毒で獲物を麻痺し、循環器系にダメージを与え、丸飲みにする。夜行性で雑食のため、哺乳類、鳥類、カエル、トカゲなどを食す。ハブが人間を噛んでも、速やかに治療を受ければ命に別状はないが、痛みは強く、長引くこともある。

Hime habu viper / *Ovophis okinavensis* / Hime habu / ヒメハブ

和名では「姫ハブ」と呼ばれる日本の固有種のヘビだが、より危険なハブとは違う。ハブ同様に夜行性で、哺乳類、鳥類、両生類などを食べる。また、ハブとは違い、主に地上で生活し、毒も弱く、動きも遅い。

（琉球諸語では怠け者、寝てばかりの人の意味を持つ「ニーブヤー」とも呼ばれる。ヒメハブはハブより短く、体長は 80cm でふっくらしている。体には茶色で、濃い茶色か緑のまだら模様があることが特徴。カエルが主な主食で、冬に産卵のため集まっているカエルの集団を溪流沿いで探す。人がこのハブに噛まれることはまれだが、毒蛇であるため注意が必要である。

Amami coral snake / *Sinomicrurus japonicas japonicus* / Hyan / ヒヤン

奄美大島の森に生息し、滅多に見ることができない美しいヘビで、オレンジの体に濃い茶色の線が入っている。コブラの近縁種で、体長 30～60cm で細く、短く、毒を持つ。口は小さいが、人間には危険である。主な主食はミミズ。

Ryukyu green snake / *Cycphiops semicarinatus* / Ryukyu aohebi / リュウキュ

ウ

ア

オ

ハ

ビ

毒を持たないリュウキュウアオヘビは奄美大島の平地から山地、民家の近くの林床でよく見られる。様々な色のものがあるが、主に黄緑か緑っぽい茶色で、濃い線が縦に入り、腹部は白か黄色である。成長すると体長 70～80cm になり、主な主食はミミズと小動物である。